

## 第7回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会 会議録（書面会議）

日 時：令和3年8月5日（木）から令和3年8月17日（火）

出席者：福島委員長、周防委員、木村委員、石井委員、大橋委員、甲斐切委員、  
廣原委員

### 1. 5事業に対する医療の取り組み(救急)

- ・コロナ禍「断らない救急を目指す」を最重点事項として、受入率は97.5%。応需率は57.8%と前年度を上回っている。現場の職員の努力の結果であり高く評価できる。今後感染者が増加傾向にあり対応が難しくなるが、更なる努力をお願いしたい。
- ・これからの的確な判断のもとに、患者さんにとって最も適切な医療を早く提供できるように救急医療への対応をお願いする。
- ・時間帯や要請元、疾病状況、その時の院内体制など細部のデータも示されれば、より一層の議論や評価が可能だと思う。

### 2. 5事業に対する医療の取り組み(周産期)

- ・周産期医療については、医師働き方改革の実行の時に、現状の産婦人科医師でクリア出来るかを今から検討する必要がある。

### 3. 5事業に対する医療の取り組み(小児医療)

- ・小児科の常勤医は現在1名(令和3年度)になったが、地域の中核病院として小児科の存在は貴重であり、採算性は別にしても今後も大事にして頂きたい。

### 4. 地域の医療機関、介護施設との機能分化連携強化

- ・新型コロナに関するハブステーションとしての役割を果たした事はとても評価できる。
- ・病院の感染看護師を常に管内の介護施設に巡回し、指導を行い、クラスターの発生を防止する事を実施されているとは思いますが、この時期強化する事が重要であると考えます。
- ・在宅医療については医師会もさらなる努力が必要だと思うが、病院のリードのもとに各医療機関が連携して上げていけるよう進めて頂きたい。
- ・看護師が不足する中、COVID-19病棟で診療するスタッフを確保しなくてはならない状況で、大変苦勞されたと思う。新型コロナ対策ではクラスターが発生したが、発症前から感染力があるこのウイルスについては、完全な感染予防は不可能であると思われ、クラスターが出た後の対応は適切であったと思う。感染対策で改善すべきところがあればしっかり見直していただき、今後も引き続き、地域の中核病院として機能して頂きたい。
- ・新型コロナ蔓延期に関する取り組みでは、新型コロナ感染者受け入れ強化PCR検査センター設置、また第2種感染症指定医療機関として、情報発信を行うなど、中核病院として適切な対応をされている。

- ・休床病棟の再開については、必要な人員の確保ができて、方向性を明らかにしてから、慎重に進める必要があると思う。
- ・地域包括ケアシステムの中で、急性期病床、地域包括病床、回復期リハビリ病棟を運営し、在宅医療を実践される開業医の先生方、訪問看護、地域の介護施設との連携を推進している取り組みは、今後さらに期待できる。一方で今回の報告書では、地域包括ケアシステムの主人公である、在宅や施設で療養される利用者さんと病院とのかかわりが明確ではない。地域住民に対して、病院としての積極的なかかわりを明示されることが望まれる。

## 5. 医療の質の向上

- ・医療の質向上に関する取り組みでは、インシデントの分析を継続されているなど、地道に継続されている。

## 6. 市民・患者サービスの向上 (患者中心の医療の提供)

- ・市民公開講座は、市民にとっては関心が高く、疾病の予防や早期発見にとっても有意義である。コロナの時期、可能であれば録画を行い、例えばYouTubeで公開すればいいと思う。その場合、院内のポスターにQRコードを入れる、LINEの配信を行う等、容易にYouTubeにたどり着けるよう工夫願いたい。
- ・職員の接遇向上について、前向きに取り組んでいることが伺える。「感謝の件数」のみでなく、「クレームの件数」についても目標指数とする事も考えてみては如何か。
- ・患者とのトラブルでは、ちょっとしたものの言い方で、相手をととても不快にしたり挫けさせる事がよくある。「ボキャブラリー手帳」を作成し、病院職員や委託職員全員に配布する事を検討しては如何か。
- ・患者中心の医療の提供、職員の接遇向上の関係について、Google Mapで病院の評価の投稿を誰でも見ることが出来る。不満がある人は書き込むが、何も思わない人は何も書き込まないので、悪いところが目立つということもあると思うが、大きな組織であるので、職員一人の言動や患者への雑な扱いが多くの人に読まれる口コミになるという意識が必要かと思う。
- ・患者の立場に立って、以前の指摘事項を再チェックすることも重要だと思う。
  - ①診療内容の評判 (医療水準)
  - ②ドクター、看護師の評判 (医療従事者の質の問題)
  - ③待ち時間
  - ④夜間休日診療の対応
  - ⑤各診療科間の連携 (特に高齢者)
- ・5 疾病等に対する主な医療の取り組みに関して、それぞれの疾患に対して、多職種協働のチームの設置により、サポートやカンファレンスが行われ、より良い医療提供や継続したケア提供となり、患者や家族の安心につながっていると思う。このようなチーム医療の取り組みを病院ホームページや病院紹介冊子や入院のしおり等でピーアールしては如何か。
- ・「職員の接遇向上」に関して、毎年実施している患者満足度調査の中で、その調査項目の変化をみていくことが必要だと思う。

## 7. 効率的効果的な業務運営

- ・業務運営の改善及び効率化に関する事項も、継続的に取り組まれておられる。
- ・新築間もない施設であるが、施設が新しい段階で毎年施設・設備の点検項目及び予算を作っておき、施設・設備のリスク管理や長寿命化を図って行く必要がある。

## 8. 職員のやりがいと満足度の向上

- ・看護師の働き方改革について、負担軽減などにより人員不足の早期解消は早期に取り組まれるべきテーマであり、医療を充実させる為にも是非ともあらゆる手段によって実現頂きたい。
- ・看護師不足や負担軽減について、チーム医療が益々推進され、「臨床検査技師等に関する法律施行の一部改正」より、他の医療関係専門職の役割、業務範囲も拡大される中、病院全体の業務委員会等でタスクシフト/シェアについて検討協議され、看護師の不足や負担軽減につながることを期待する。

## 9. 経営基盤の安定化について

- ・収入の確保で、病床利用率と入院単価が低いことが気になる。当院の実力では、もう少しあげること可能だと思う。また稼働率は日頃から地域の状況、患者・家族の動向をチェックし、あらゆる工夫をしてあげる必要がある。場合によっては「レスパイト入院」も視野においても良い。入院の権限を誰が持っているかも重要である。
- ・全体としてマーケティングの観点が薄いような印象を受ける。診療圏の設定や拡大の目標、診療圏の中の推定患者数調査等少し専門的にも取り組んでみられたら良い。
- ・開業医も同様、コロナ後の病院経営は困難が待ち受けていると思われ、これまでの診療を見直さなければいけないことも明らかになってきたと思われる。中核病院として必要なものと変更すべき点を見極め、病院経営の見直しを期待する。
- ・決算において剰余金を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入に充てるとあるが、経営悪化時に備え一部は積立金として残す等の文言に変更することを検討されたい。
- ・医業収支は、前年度比約 2 億 945 万円の悪化と、新型コロナウイルス対策等により残念な結果となったが、アフターコロナが必ずや到来するので、収束後には健全な収支になるよう、今から計画を実施して頂きたい。
- ・財務内容の改善は、いまだ新型コロナウイルス蔓延期にあり、厳しい状況が継続すると予想される。来年度に向けての財政再建計画は、正確に見えない状況であるが、いくつかの状況を想定して立てていく必要があると思う。
  1. 新型コロナウイルス感染蔓延期が継続した状況
  2. 新型コロナウイルス感染がさらに増悪し、地域別に隔離政策がとられた場合。

3. 新型コロナウイルス感染収束期で、正常な医療現場が戻りつつある時期。いずれの時期に対しても適切な病院経営の在り方について経営計画を想定すべきである。

- ・財務内容の改善がD評価となっているが、コロナの影響により、入院・外来の患者数や医療提供状況の変化と共に経営状況の変化はこの病院も著しく、補助金交付を受け感染症指定医療機関としての役割を果たすのは当然のことと思う。大変な中でも補助金活用により、前年度より収支改善されている状況からDとの厳しい評価で良いか疑問を感じる。
- ・役員が病院経営に十分な力が発揮できるよう、その責任と権限に見合った報酬の支給や役員賠償保険への加入等の検討が必要であると思う。
- ・コロナ禍ではあるが、赤字が続いているのが実情で、病院の財産が枯渇してからは遅いので、役員だけでなく、設置者や議会等の周囲も含め、早い段階から軌道修正をしていく必要があるのではと感じた。

以 上

#### <資料>

- ・地方独立行政法人公立甲賀病院  
令和2年度の業務実績に関する評価結果報告書（案）
- ・年度計画策定、目標指標、実績数値の推移表
- ・財務諸表
- ・監査報告書